

福岡県英語教育改善プラン

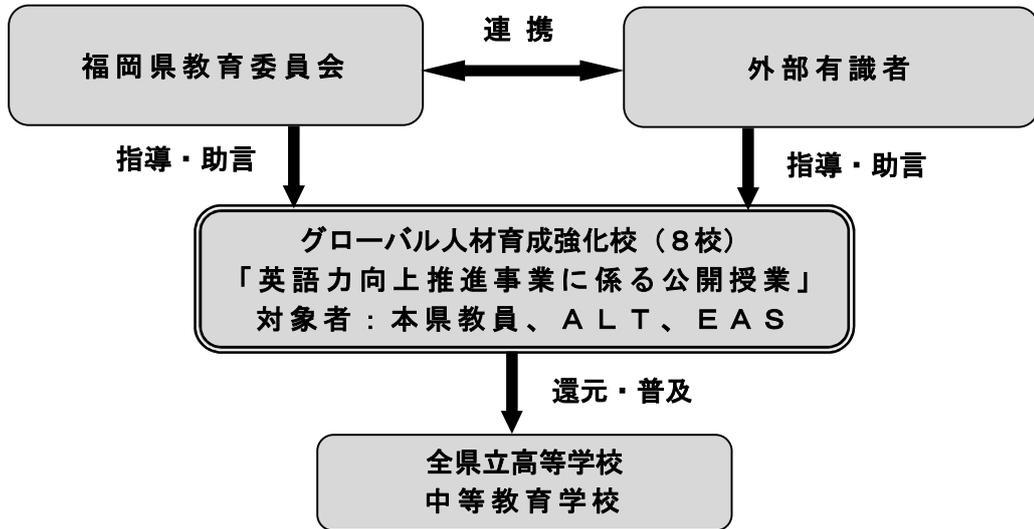
実施内容

(1) 研修体制の概要

【高校】

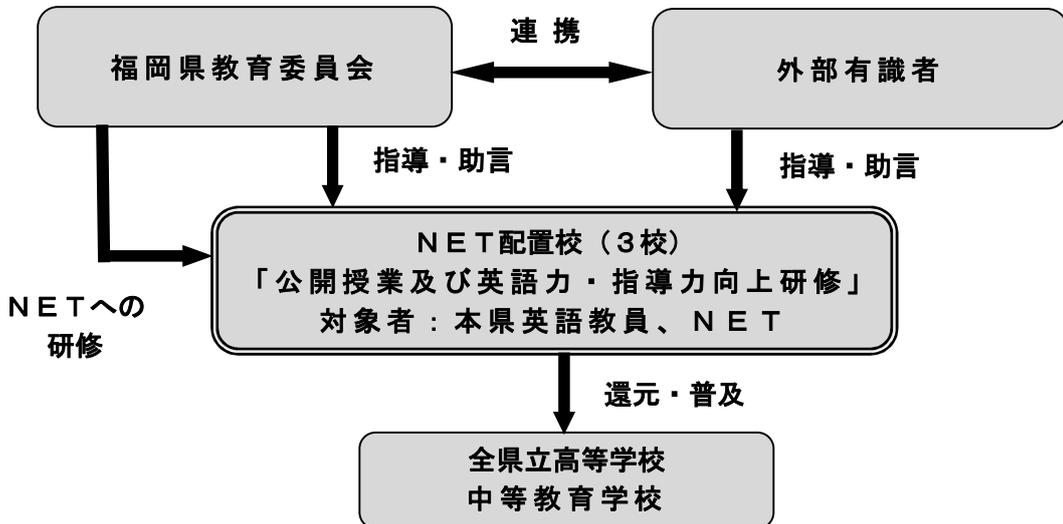
(1) 英語力向上推進事業（英語イマージョン教育）

EAS（English Activity Supporter：英語活動指導員）をグローバル人材育成強化校8校に配置し、英語によるイマージョン教育を行う。また、公開授業及び研究協議等を通して、各校への還元・普及を図る。

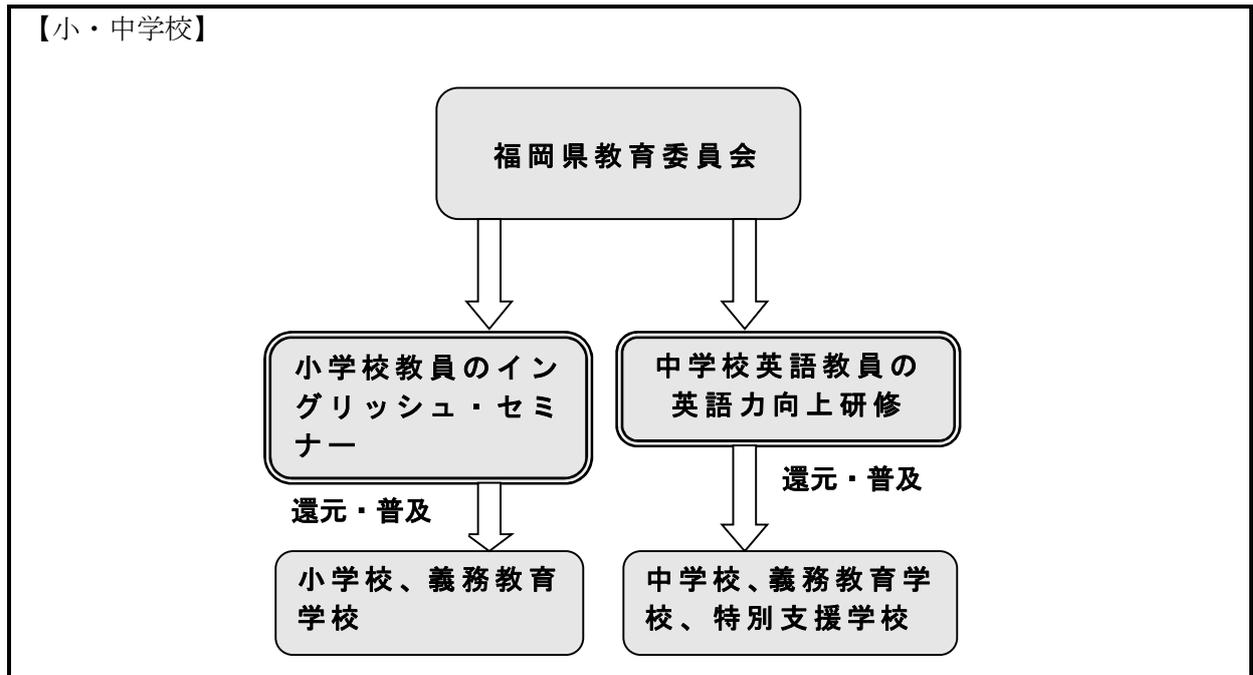


(2) 高等学校英語ネイティブ教員の配置

NET（Native English Teacher：ネイティブ英語教員）を定数枠として3校に配置し、生徒の実践的な英語力の育成を図る。さらに、NETによる公開授業及び研究協議等を実施し、各校への還元・普及を図る。



【小・中学校】



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

①求められる英語力を有する担当教員の全担当教員に占める割合

【高校】

ア 数値指標 (CEFR B2レベル以上を取得している教師の割合：%)

2018	2019	2019	2020	2021	2022
達成値	目標値	達成値	目標値	目標値	目標値
72	73	80	74	75	76

イ 目標達成のための具体的な手立て

(ア) 今年度の調査により目標を上回った要因として、①今年度までの「英語教員指導力向上研修」において、資格取得を奨励したこと ②新規採用教員にCEFR B2レベル以上の英語力を有する者が相当数いること 等が挙げられる。また、これまで「英検準1級レベル以上の資格取得」となっていた基準が、CEFR B2レベルと変更されたことにより、他の資格試験等の有資格者の認識が進んだことも要因の一つと考えられる。今後も、研修会等において民間の英語資格試験等の受験を奨励して、引き続き教員の英語力の検証・向上を図る。

【中学】

ア 数値指標

2018	2018	2019	2019	2020	2021	2022
目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	目標値	目標値
34	36	40	38	44	47	50

イ 目標達成のための具体的な手立て

(ア) 全英語教員を対象とした県主催の英語教員英語力向上研修を実施し、英語関係企業と連携して教員の英語力の向上を図る。

(イ) 福岡県指導主事等研修会(外国語分科会)において、県内の教育事務所及び各教育委員会に対し、英語力向上のための具体的な数値目標を設定するように依頼する。

(ウ) 福岡県教育センター、各教育事務所における英語教員対象の研修会等において、資格取得に向けた啓発を行い、教員の英語力の検証・向上を図る。

②求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合（中学校第3学年、高等学校第3学年）

【高校】

ア 数値指標（CEFR A2レベル以上相当の生徒数：％）

2018	2019	2019	2020	2021	2022
達成値	目標値	達成値	目標値	目標値	目標値
43	45	48	47	49	50

イ 目標達成のための具体的な手立て

- (ア) 今年度の調査により目標を上回った要因の一つとして、民間の英語資格試験受験者の増加（昨年度比+1,500名以上）が考えられる。昨年11月に延期が発表されたものの、大学入学共通テストへの民間の英語資格試験活用が大きな刺激となり、受験者が増加したものと予想される。引き続き、教員の指導力向上及び学習指導要領の趣旨に沿った4技能統合型の授業の充実を図り、生徒の総合的英語力を向上させる。
- (イ) 「CAN-DOリスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標について達成状況の把握までを行うことができるよう、研修会や教育課程説明会で指導と啓発を行う。
- (ウ) 英語4技能評価は、グローバル人材育成のため重要なものであることを研修等で説明し、生徒の積極的な民間の英語資格試験等の資格取得が、各学校で普及するような指導を行うとともに、引き続き高校生等奨学給付金受給者に対して受験料の補助を行う。

【中学】

ア 数値指標

2018	2018	2019	2019	2020	2021	2022
目標値	現状	目標値	達成値	目標値	目標値	目標値
38	42	44	42	46	48	50

イ 目標達成のための具体的な手立て

- (ア) 地域の全中学3年生を対象として英検IBAテストを実施し、生徒の英語力の状況を把握するとともに、結果に基づいた授業改善及び個に応じた支援を行う。
- (イ) 全英語教員を対象とした県主催の英語力向上研修及び福岡県教育センターによる英語教員専門研修を実施し、複数の技能を統合した授業の充実を図り、生徒の総合的な英語力の向上を図る。
- (ウ) 全英語教員を対象とした県主催の英語力向上研修において、「CAN-DOリスト」の形式の学習到達目標の活用及び達成状況の把握に向けたパフォーマンステストの在り方について説明・演習を行い、生徒の英語力を向上させる授業づくりへの改善を図る。

③「CAN-DOリスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況（設定・公表及び達成状況の把握等の状況）

【高校】

ア 数値指標

	2018	2019	2019	2020	2021	2022
指標内容	達成値	目標値	達成値	目標値	目標値	目標値
設定(%)	95	100	95	100	100	100
公表(%)	95	100	95	100	100	100
達成状況の把握(%)	95	100	95	100	100	100

イ 目標達成のための具体的な手立て

設定については、平成25年度に通知を出しており、平成26年度に全ての県立高等学校において作成を完了した。福岡県全体では、各項目95%であるが、県立学校については100%である。今後も、市町村等教育委員会と連携を図り、各学校の「CAN-DOリスト」の内容を向上させ、教育課程説明会において活用・評価にまでつなげる指導の在り方についての

指導を行う。

【中学】

ア 数値指標

	2018	2018	2019	2019	2020	2021	2022
指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	目標値	目標値
設定(%)	100	100	100	100	100	100	100
公表(%)	80	95	100	97	100	100	100
達成状況の把握(%)	100	100	100	100	100	100	100

イ 目標達成のための具体的な手立て

- (ア) 全英語教員を対象とした県主催の英語力向上研修及び福岡県教育センターによる英語教員専門研修を実施し、学習到達目標（CAN-DOリスト形式）の意義について確認し、活用方法や公表・達成状況の把握方法について見直し、改善を図る。
- (イ) 福岡県指導主事等研修会の外国語部会において、学習到達目標（CAN-DOリスト形式）の意義やその活用、改善に向けた各市町村教育委員会の取組等について事例発表や協議を行い、共通理解を図る。

④授業における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合

【高校】

ア 数値指標

2018	2019	2019	2020	2021	2022
達成値	目標値	達成値	目標値	目標値	目標値
37	40	41	43	46	50

イ 目標達成のための具体的な手立て

本県は、平成24年度から平成26年度まで実施した英語教員指導力向上事業における合同研修会及び授業研修会において、4技能を総合的に育成する授業の普及を図ってきた。また、平成27年度から令和元年度にかけて、全英語教員を対象とした県主催の英語教員指導力向上研修を実施し、その成果を各学校に還元・普及させることにより、英語教員の言語活動に係る指導力向上と言語活動の充実を図ってきた。令和2年度以降も、研修会や教育課程説明会等で指導を継続する。

【中学】

ア 数値指標

2018	2018	2019	2019	2020	2021	2022
目標値	現状	目標値	達成値	目標値	目標値	目標値
75	77	80	79	85	90	95

イ 目標達成のための具体的な手立て

- (ア) 全英語教員を対象とした県主催の英語力向上研修及び福岡県教育センターによる英語教員専門研修を実施し、複数の技能を統合した授業の充実を図ることにより、生徒の英語による言語活動時間の占める割合の向上を図る。

- ⑤「話すこと」及び「書くこと」における「外国語表現の能力」を評価するためのスピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの状況

【高校】

ア 数値指標（授業を開設していない学校を除く）

普通科

	スピーキングテスト・ライティングテストの両方を実施				
	2019	2019	2020	2021	2022
	目標値	達成値	目標値	目標値	目標値
コⅠ	32%	35%	35%	38%	40%
コⅡ	26%	40%	29%	32%	35%
コⅢ	13%	18%	16%	18%	20%
英表Ⅰ	26%	22%	29%	32%	35%
英表Ⅱ	29%	25%	32%	35%	37%

英語教育を主とする学科及び国際関係に関する学科

	スピーキングテスト・ライティングテストの両方を実施				
	2019	2019	2020	2021	2022
	目標値	達成値	目標値	目標値	目標値
総合英語	78%	75%	81%	83%	85%
異文化理解	78%	75%	81%	83%	85%

その他の専門学科及び総合学科

	スピーキングテスト・ライティングテストの両方を実施				
	2019	2019	2020	2021	2022
	目標値	達成値	目標値	目標値	目標値
コⅠ	25%	34%	28%	31%	33%
コⅡ	27%	33%	30%	33%	35%
コⅢ	14%	5%	17%	20%	22%
英表Ⅰ	29%	24%	32%	35%	37%
英表Ⅱ	30%	6%	33%	36%	38%

イ 目標達成のための具体的な手立て

- (ア) 「英語教育実施状況調査」において、「両方実施なし」とした理由について、多くの学校が「他の科目でパフォーマンステストを実施しているため」と回答している。例えば、1年の「コミュニケーション英語Ⅰ」においてパフォーマンステストを実施した場合、同学年で履修する「英語表現Ⅰ」においては実施しない、ということである。また、本調査の結果より、英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱではライティングテストのみを多くの学校が実施する傾向にある。これらの背景には、スピーキングテストを実施する時間の確保が困難であることが挙げられる。この課題を解決するために、効果的なスピーキングテストの方法や評価の仕方などを各研修や教育課程説明会等において協議し、指導・助言を行う。

(イ) スピーキングテストについて

スピーキングテストの実施については、上述のようにテストを実施する時間の確保が課題の一つである。この課題を解決するために、スピーキングテストの具体的な実施方法に関するモデルを掲示し、段階的な普及を図りたい。一方、パフォーマンステストの評価規準が校内で十分確立されていないという学校も見受けられるため、適宜指導していきたい。

(ウ) ライティングテストについて

ライティングテストは平成26年度までの研修においてノウハウが確立されており、平成27年度からは研修会において、定期考査の工夫・改善を含めた実施のさらなる徹底を図っている。

【中学】

ア 数値目標

スピーキングテスト・ライティングテストの両方を実施					
2018	2019	2019	2020	2021	2022
現状	目標値	達成値	目標値	目標値	目標値
90	93	96	96	98	100

イ 目標達成のための具体的な手立て

- (ア) 全英語教員を対象に実施する県主催の英語力向上研修及び福岡県教育センターによる英語教員専門研修において、パフォーマンステストの実施方法について説明・演習を行い、効果的な実施に向けて改善を図る。
- (イ) ALT指導力等向上研修において、パフォーマンステストについて協議し、具体的な評価方法についてモデルを作成し、実施の普及を図る。
- (ウ) 福岡県指導主事等研修会外国語部会でパフォーマンステストの実施・改善に向けた協議を行うとともに、実施のための時間確保やテストの妥当性について研修を行う。

⑥授業における、英語担当教員の英語使用状況

【高校】

ア 数値指標

2018	2019	2019	2020	2021	2022
実績	目標値	達成値	目標値	目標値	目標値
36	40	35	43	46	50

イ 目標達成のための具体的な手立て

- (ア) 県主催の研修において、教員の英語使用についての研修を実施する。
- (イ) 重要な要素は「教員の英語力向上」及び「生徒の英語による言語活動時間の充実」と考える。したがって、これらの向上・充実を促進することで、使用率向上を図る。

【中学】

ア 数値指標

2018	2018	2019	2019	2020	2021	2022
目標値	現状	目標値	達成値	目標値	目標値	目標値
70	75	80	76	85	90	95

イ 目標達成のための具体的な手立て

- (ア) 全英語教員を対象に実施する県主催の英語力向上研修及び福岡県教育センターによる英語教員専門研修において、英語で進める授業について実践を基にした研修を行う。
- (イ) 教育事務所指導主事等による学校訪問の際に、ALTとのチームティーチングにおいて、言語活動中心の授業の設定と英語で授業を進めることについて指導する。
- (ウ) ALT指導力向上研修において、JTEに英語での言語活動の事例等を示したり、海外研修経験者にワークショップを依頼したりすることで、教師の英語による指導方法についてモデルとして示す場を設定する。

⑦域内の全ての学校における研修実施回数及び研修受講者の人数

【高校】

ア 数値指標

	2018	2019	2019	2020	2021	2022
指標内容	実績	目標値	達成値	目標値	目標値	目標値
研修実施回数	21回	12回	12回	7回	7回	7回
研修受講者数	171人	130人	129人	未定	未定	未定

イ 目標達成のための具体的な手立て

(ア) 今年度は英語教育推進リーダーによる研修会を、推進リーダー3名の所属校で各1回(計3回)、教育センターにてリーダー1名につき3回(計9回)、合計12回実施した。研修内容については充実しており、英語教員の言語活動に係る指導力向上という目標を達成することができたと考える。次年度以降も、EAS(英語活動指導員)及びNET(ネイティブ英語教員)の公開授業及び研修会を通して、研修成果を各学校へ普及させる。

【中学】

ア 数値指標

	2018	2018	2019	2019	2020	2021	2022
指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	目標値	目標値
研修実施回数	14回	14回	2回	2回	2回	未定	未定
研修受講者数	110人	105人	285人	247人	247人	未定	未定

イ 目標達成のための具体的な手立て

(ア) 全英語教員を対象とする県主催の英語力向上研修及び福岡県教育センターによる英語教員専門研修を実施するとともに、教育事務所や市町村単位の研修の充実を図る。

(イ) 中央研修に参加した教員については、教育事務所の研修や福岡県教育センターの研修等において、講師を依頼するとともに、ALT研修会等において積極的に活用を図る。

⑧小学校英語専科指導に係る教員の採用計画について

小学校外国語教育の教科化に伴う、新学習指導要領の円滑な実施と学校における働き方改革の実現を目指し、新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合について、下記のとおり計画する。

	2020	2021	2022	2023	2024	2025
実績	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	4%	5%	6%	11%	20%	50%

【有資格者の確保の手立て】

- ・大学等各種学校や生徒への広報・周知
- ・学生を対象とした教員養成セミナーの実施
- ・採用試験における有資格者枠の順次拡大
- ・教員採用試験の改善

(3) 研修の体系と内容の具体

【2020年度の計画】

【高等学校】

本県では、「英語力向上推進事業」におけるグローバル人材育成強化のための体制整備として、平成28年度よりイマージョン教育(※1)を行うEAS(英語活動指導員)をグローバル人材育成強化校に配置し、生徒が英語を使用する機会を増やすことにより、論理的思考力、判断力及び表現力に加え、実践的な英語力を身に付けたグローバル人材の育成を図っている。現在、4名のEASが8校に訪問しイマージョン教育を実践している。

また、令和元年度より4技能統合型の英語力を育成する資質と能力を有している、英語母語話者の外国人材(NET:ネイティブ英語教員)を配置し、生徒の実践的な英語コミュニケーション能力の育成を図っている。現在、3名のNETが3校に常勤で配置され、実践を行っている。

次年度は、EAS及びNETによる公開授業及び研究協議に加え、有識者による指導助言、講義、演習等を通して、英語教員の指導力向上を図る。

(※1) 本県におけるイマージョン教育とは以下のようなものである。

「英語以外の教科の授業を、英語を使用して実施する。生徒が教師による英語での説明を聞いた、英語の資料を調べたり、自分の考えを英語で発表したりすることにより、教科の内容を習得するとともに、実践的な英語コミュニケーション能力を向上させることを目指す。」

1 EAS（英語活動指導員）公開授業及び研修会

(1) 運営会議

ア 対象者

EAS 4名、グローバル人材育成強化指定校担当教員 8名

イ 目的・内容

令和元年度の成果と課題、令和2年度の事業概要、各研修会の内容等について検討する。

ウ 実施回数

年1回実施

(2) 研修

ア 対象者

英語科を含めた教員各校1名以上

イ 目的・内容

EASとグローバル人材育成強化指定校教員によるモデル授業と、授業方法に関する研究協議を実施し、研修対象者に論理的思考力、判断力及び表現力に加え、実践的な英語力を身に付けさせるための授業について、具体的なイメージをつかませる。また、研究協議や有識者による専門的学識にもとづく講義等を実施することにより、指導力の向上を図る。

ウ 実施回数

4回(地区別公開授業担当校4校にて各1回・計4回)

エ 受講予定者

100名程度

2 NET（ネイティブ英語教員）公開授業及び研修会

(1) 学校視察

ア 対象者

NET 3名

イ 目的・内容

令和2年度の活動状況及び課題等の把握・改善を図る。

ウ 実施回数

年1回実施

(2) 研修

ア 対象者

英語教員各校1名以上

イ 目的・内容

NETによるモデル授業と、授業方法に関する協議を実施し、研修対象者に生徒の実践的なコミュニケーション能力の育成を目的とした英語の授業改善について、具体的なイメージをつかませる。また、研究協議や有識者による専門的学識にもとづく講義等を実施することにより、指導力の向上を図る。

ウ 実施回数

3回(NET設置校3校にて各1回・計3回)

エ 受講予定者

100名程度

【小・中学校】

1 小学校教員のイングリッシュ・セミナー

(1) 対象者

小学校及び義務教育学校の教諭

(2) 目的・内容

小学校外国語教育の早期化・教科化の実施に伴い、小学校教員の英語力・指導力の向上を図る研修を行うことで、小学校英語教育の推進及び小学校外国語活動及び外国語の授業の質の向上を図る。

(3) 実施回数

6回

(4) 受講予定者数

448名

2 中学校英語教員の英語力向上研修

(1) 対象者

中学校英語科教員

(2) 目的・内容

新学習指導要領の全面実施に向け、英語関係企業のノウハウを取り入れた効果的に英語力を高める研修を行うことで、授業を英語で進め、生徒の4技能（5領域）をバランスよく育成する言語活動及び評価を行うための英語力・指導力を高め、外国語科授業の質の向上を図る。

(3) 実施回数

2回

(4) 受講予定者

247名

【2022年度までの計画】**【高等学校】**

2020年度の計画を継続することにより、英語指導力向上を図る。

1 EAS公開授業及び研究協議等

(1) 対象者

英語科を含めた教員各校1名以上

(2) 目的・内容

EASとグローバル人材育成強化指定校教員によるモデル授業と、授業方法に関する研究協議等を実施することにより、研修対象者に論理的思考力、判断力及び表現力に加え、実践的な英語力を身に付けさせるための授業について具体的なイメージをつかませるとともに、指導力の向上を図る。

(3) 実施回数

4回(地区別公開授業担当校4校にて各1回・計4回)

(4) 受講予定者

200名程度

2 NET公開授業及び研究協議等

(1) 対象者

英語教員各校1名以上

(2) 目的・内容

NETによるモデル授業と、授業方法に関する研究協議等を実施することにより、研修対象者に生徒の実践的なコミュニケーション能力の育成を目的とした英語の授業改善について具体的なイメージをつかませるとともに、指導力の向上を図る。

(3) 実施回数

3回(NET設置校3校にて各1回・計3回)

(4) 受講予定者

200名程度

【小・中学校】

1 小学校教員のイングリッシュ・セミナー（2021年度までの実施）

(1) 対象者

小学校及び義務教育学校の教諭

(2) 目的・内容

小学校外国語教育の早期化・教科化の実施に伴い、小学校教員の英語力・指導力の向上を図る研修を行うことで、小学校英語教育の推進及び小学校外国語活動及び外国語の授業の質の向上を図る。

(3) 実施回数

6回

(4) 受講予定者数

448名

2 中学校研修（未定）

【小学校英語専科指導に係る教員の採用計画】

年 度	2020	2021	2022	2023	2024	2025
採用者数 A	624	650	650	460	300	150
うち英語有資格者 B	28	35	40	50	60	75
割 合 (B/A)	4%	5%	6%	11%	20%	50%

○来年度の取組

大学等各種学校への広報をはじめ、教員を志す学生を対象としたセミナーを開催し、小学校英語教育に対する理解と熱意を醸成する。

また、教員採用試験において英語有資格者を対象とした採用枠の設定や、優遇措置を行うことで、受験や英語の資格取得を促していく。

